

2 研究の実際 > (2) トラブルについての実態調査

イ 実態調査の結果と考察(中学校)

<頻度の高いトラブル(質問㉑)>

予備調査の結果を基に抽出したトラブルの 29 場面について、「あなたのまわりの様子に近いもの」として 4 件法で調査を実施しました。

調査対象期間は、4 月から 9 月までの 6 か月間としました。

以下は、「よくある」と「ときどきある」の合計の多いトラブル上位 5 場面についての集計結果です(図 1)。

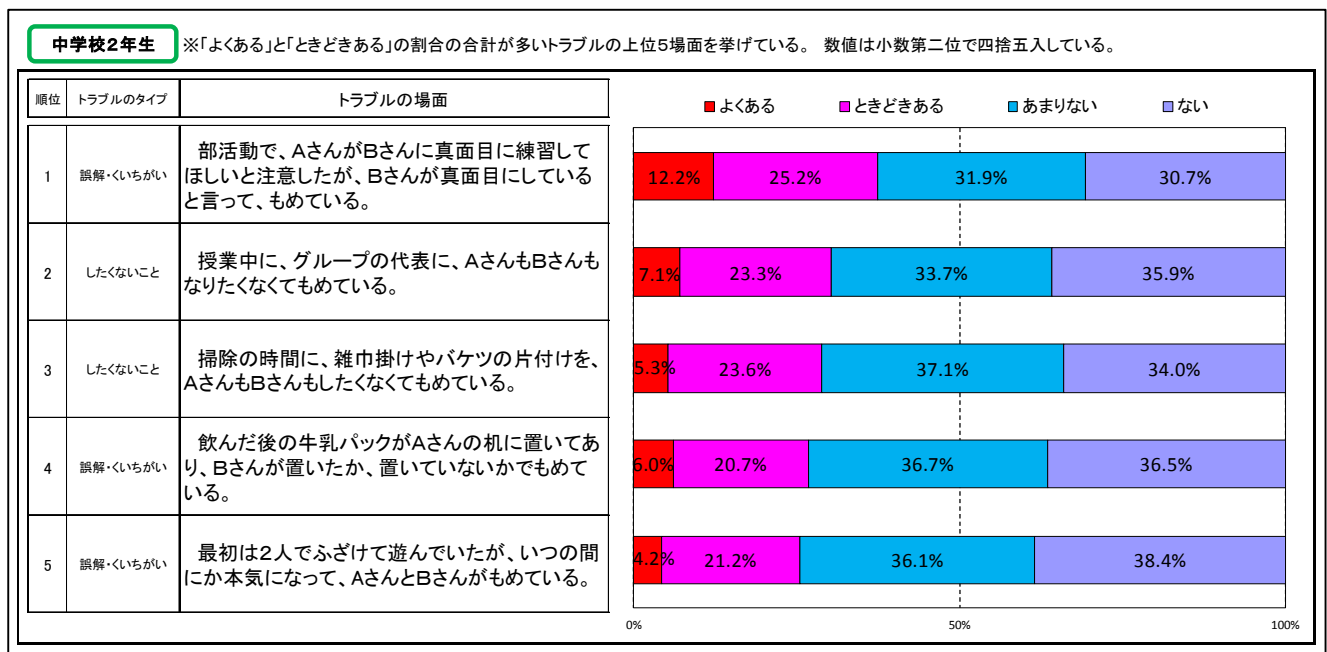


図 1 頻度の高いトラブルの上位 5 場面

中学校では、トラブルの場面で見ると、**部活動や授業、掃除**の時間帯で起きるトラブルが多いことが分かりました。また、4 つに分けたトラブルのタイプ別に見ると、上位 5 場面には「誤解・食い違い」によるトラブルが 3 場面、「したくないことに関する主張」によるトラブルが 2 場面ありました。上位 10 場面には、この他に「ルールやマナーに関する意識の違い」によるトラブルが 4 場面と「したくないことに関する主張」によるトラブルが 1 場面ありますが、「したいことに関する主張」によるトラブルはありませんでした。

これらのことから、生徒が部活動や授業、掃除など**小集団内で活動を共にする場面で、相手の意見や考えを聴くことができずに、自分の意見や考えだけを主張してトラブルが起きている**と考えられます。特に、部活動は生徒の自主的で自発的な参加による活動であり、同じメンバーで多くの時間を過ごすため、活動に対する価値観や活動への意欲の違いが明らかになりやすく、互いの意見や考えを主張し合うことによるトラブルが多く起きていることが考えられます。そこで、**互いに意見や考えを相手に伝えるときに、トラブルにならないような聴き方や話し方のスキルを身に付けることが必要である**と考えます。

<声掛けの意識が高いトラブル(質問④)>

予備調査の結果を基に抽出したトラブルの 29 場面について、「もし、トラブルがあったとしたら、あなたは間に入って声を掛けることができると思うか」として 4 件法で調査を実施しました。

以下は、「思う」と「少し思う」の合計の多いトラブル上位 5 場面についての集計結果です(図 2)。

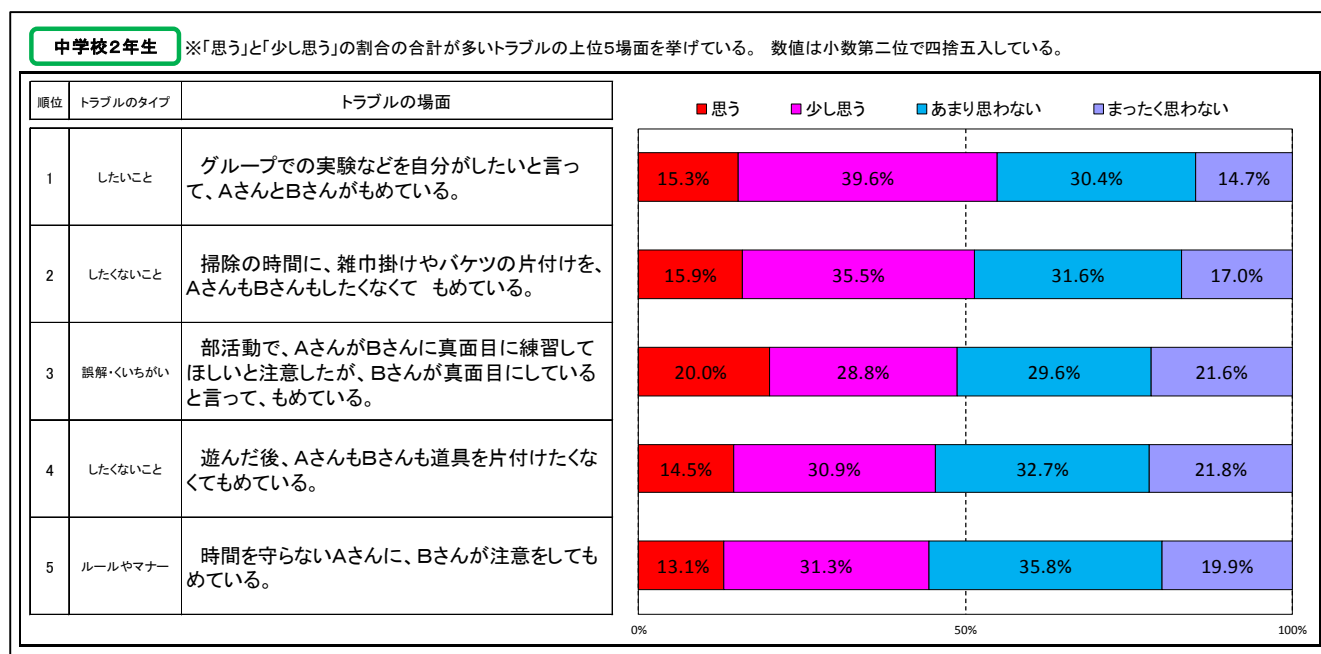


図 2 声掛けの意識が高いトラブルの上位 5 場面

中学校では、声掛けの意識が高いトラブルの上位 3 場面は、「グループの実験」「掃除の片付け」「部活動の練習態度」など、自分が所属して活動している小集団の中で起きているトラブルでした。実態調査に挙げた 29 場面には小集団に関するトラブルが 8 場面ありますが、その中の 6 場面が上位 10 場面に入っています。また、上位 5 場面には、「したいことを互いに譲らない」「したくないことを互いに押し付け合う」「ルールを守っていないことへの注意」など、もめている状況がはっきりしているトラブルが 4 場面入っています。さらに、実態調査に挙げた全てのトラブルの場面においては、声掛けの意識が最も低い場面でも 32.9%の生徒が声を掛けようと思っていることが分かりました。

このことから、**自分が所属している小集団におけるトラブルの場面やもめている状況が明らかなトラブルの場面では、声を掛けることができると思っていることが考えられます。**自分が所属する小集団内では生徒自身もトラブルと無関係ではいられないと感じたり、トラブルが目前で起きて原因が明らかな場面では解決策を思い付きやすかったりするため、声を掛けようと思うのではないかと考えられます。また、実態調査に挙げたトラブルの場面においては、3割以上の生徒が声を掛けようと思っているため、**生徒の声掛けの意識を生かして、生徒が実際に行動に移すことができるようにする必要があります。**

<頻度の高いトラブルと声掛けの意識の関連性(質問⑦と質問⑧)>

質問⑦で提示されたトラブルの場面について、「あなたのまわりの様子に近いもの」として「よくある」「ときどきある」と回答した生徒、「あまりない」「まったくない」と回答した生徒のそれぞれについて、質問⑧の「もし、トラブルがあったとしたら、あなたは間に入って声を掛けることができると思うか」に「思う」「少し思う」と回答した生徒、「あまり思わない」「まったく思わない」と回答した生徒の割合を集計しました(図3)。

頻度 \ 意識	思う	少し思う	あまり思わない	まったく思わない
よくある	赤色		黄色	
ときどきある				
あまりない	緑色		黄緑色	
まったくない				

※集計の結果をこの色分けで図4のグラフに示している。

図3 グラフ(図4)の見方

以下は、質問⑦で「よくある」と「ときどきある」の合計の多いトラブル上位5場面についての集計結果です(図4)。

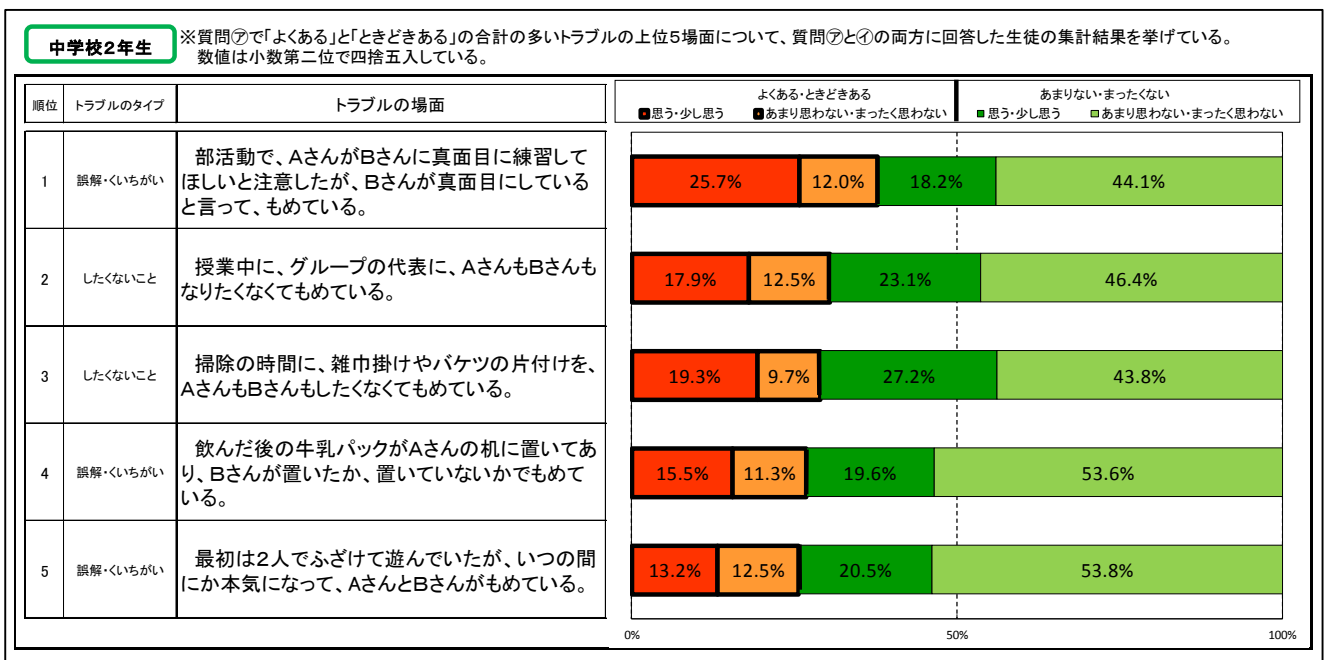


図4 頻度の高いトラブルの上位5場面における声掛けの意識

中学校では、頻度の高いトラブル上位5場面で、そのトラブルが「よくある」「ときどきある」と回答した生徒のうち、声掛けの意識で「思う」「少し思う」と回答した生徒の割合が50%を超えていることが分かりました。

このことから、**毎日の学校生活において多くの生徒が経験するトラブルには、声を掛けることができると思っている生徒が多いと考えられます。**そこで、**トラブル未然防止やトラブル解決のスキル学習を行う場合、多くの生徒が経験する実際のトラブルの場面を用いて学習することが有効であると考えます。**

< 怒りへの対処法 >

中学校では、怒りへの対処法として、「**友だちに話す**」(67.7%)、「**ゲームや音楽で気を紛らす**」(65.9%)、「**我慢する**」(60.8%)と回答した生徒が多いことが分かりました。「友だちに話す」と回答した生徒は、「親に話す」(33.2%)、「先生に話す」(5.7%)と回答した生徒よりも多いことから、怒りを感じたときには友達に話すことで気持ちが落ち着く生徒が多いことが考えられます。このことから、話している友達の気持ちが落ち着くような**話の聴き方について学ぶ必要がある**と考えます。

また、「ゲームや音楽で気を紛らす」と回答した生徒が多いことから、**その場で1人でできる怒りへの対処法について学ぶ必要がある**と考えます。

さらに、「一人になれる場所へ行く」(44.7%)、「運動などで身体を動かす」(43.5%)、「これからどうするかを考える」(41.3%)、「落ち着くように自分に言い聞かせる」(29.4%)など、自分も相手も傷付けないように怒りに対処している生徒がいることから、生徒同士でこのような怒りへの対処法を共有することが必要であると考えます。一方で、「我慢する」と回答した生徒が6割以上いることや、「自分を傷つける」、「メールやSNSに書き込む」と回答している生徒がいることから、**自分も相手も傷付けない対処法を学ぶ必要がある**と考えます。



＜中学校2年生集計結果＞

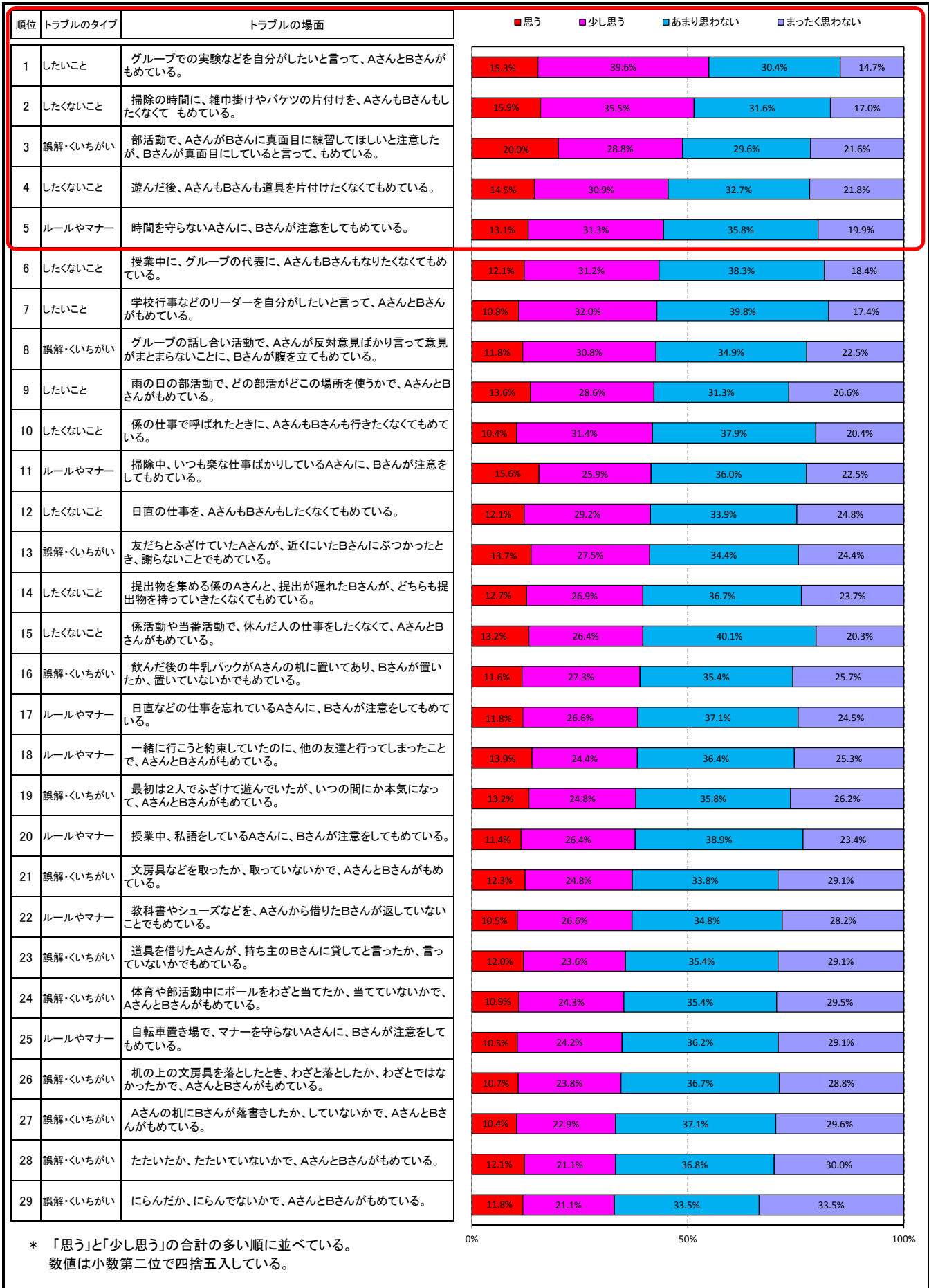
トラブルの場面について

質問② ①～⑳のトラブルの場面について、4月から今までのあなたの周りの様子を選んでください。

順位	トラブルのタイプ	トラブルの場面	よくある	ときどきある	あまりない	ない
1	誤解・いちがい	部活動で、AさんがBさんに真面目に練習してほしいと注意したが、Bさんが真面目にしていると言って、もめている。	12.2%	25.2%	31.9%	30.7%
2	したくないこと	授業中に、グループの代表に、AさんもBさんもなりたくなくてもめている。	7.1%	23.3%	33.7%	35.9%
3	したくないこと	掃除の時間に、雑巾掛けやバケツの片付けを、AさんもBさんもしたくなくてもめている。	5.3%	23.6%	37.1%	34.0%
4	誤解・いちがい	飲んだ後の牛乳パックがAさんの机に置いてあり、Bさんが置いたか、置いていないかでもめている。	6.0%	20.7%	36.7%	36.5%
5	誤解・いちがい	最初は2人でふざけて遊んでいたが、いつの間にか本気になって、AさんとBさんがもめている。	4.2%	21.2%	36.1%	38.4%
6	ルールやマナー	授業中、私語をしているAさんに、Bさんが注意をしてもめている。	4.6%	19.3%	39.3%	36.8%
7	したくないこと	係の仕事で呼ばれたときに、AさんもBさんも行きたくなくてもめている。	5.1%	18.1%	42.6%	34.2%
8	ルールやマナー	掃除中、いつも楽な仕事ばかりしているAさんに、Bさんが注意をしてもめている。	5.0%	16.5%	36.1%	42.5%
9	ルールやマナー	時間を守らないAさんに、Bさんが注意をしてもめている。	4.8%	16.1%	41.3%	37.8%
10	ルールやマナー	一緒に行こうと約束していたのに、他の友達と行ってしまったことで、AさんとBさんがもめている。	5.3%	15.6%	37.0%	42.1%
11	誤解・いちがい	文房具などを取ったか、取っていないかで、AさんとBさんがもめている。	4.8%	15.6%	33.2%	46.5%
12	誤解・いちがい	友だちとふざけていたAさんが、近くにいるBさんにぶつかったとき、謝らないことでもめている。	3.7%	16.1%	40.4%	39.8%
13	したいこと	グループでの実験などを自分がしたいと言って、AさんとBさんがもめている。	2.8%	15.9%	46.7%	34.5%
14	ルールやマナー	日直などの仕事を忘れていたAさんに、Bさんが注意をしてもめている。	2.8%	14.9%	39.5%	42.8%
15	誤解・いちがい	グループの話合い活動で、Aさんが反対意見ばかり言って意見がまとまらないことに、Bさんが腹を立ててもめている。	1.6%	14.7%	38.8%	45.0%
16	したくないこと	係活動や当番活動で、休んだ人の仕事をしたくなくて、AさんとBさんがもめている。	2.1%	14.0%	44.1%	39.8%
17	誤解・いちがい	たいたか、たたいていないかで、AさんとBさんがもめている。	2.5%	12.9%	35.0%	49.6%
18	したくないこと	遊んだ後、AさんもBさんも道具を片付けたくなくてもめている。	3.4%	11.7%	39.0%	45.9%
19	したくないこと	提出物を集める係のAさんと、提出が遅れたBさんが、どちらも提出物を持っていきたくなくてもめている。	2.5%	12.4%	41.2%	43.9%
20	誤解・いちがい	体育や部活動中にボールをわざと当てたか、当てていないかで、AさんとBさんがもめている。	3.4%	10.6%	34.0%	52.0%
21	したくないこと	日直の仕事を、AさんもBさんもしたくなくてもめている。	3.0%	10.3%	38.1%	48.7%
22	ルールやマナー	教科書やシューズなどを、Aさんから借りたBさんが返していないことでもめている。	2.8%	8.8%	38.8%	49.6%
23	誤解・いちがい	道具を借りたAさんが、持ち主のBさんに貸してと言ったか、言っていないかでもめている。	2.1%	8.9%	35.2%	53.8%
24	したいこと	学校行事などのリーダーを自分がしたいと言って、AさんとBさんがもめている。	0.7%	10.3%	48.8%	40.2%
25	したいこと	雨の日の部活動で、どの部活がどの場所を使うかで、AさんとBさんがもめている。	2.5%	8.3%	30.2%	59.0%
26	誤解・いちがい	机の上の文房具を落としたり、わざと落としたり、わざとではなかったかで、AさんとBさんがもめている。	2.3%	7.8%	32.3%	57.6%
27	誤解・いちがい	にらんだか、にらんでないかで、AさんとBさんがもめている。	2.1%	7.3%	31.0%	59.6%
28	誤解・いちがい	Aさんの机にBさんが落書きしたか、していないかで、AさんとBさんがもめている。	2.0%	6.6%	32.4%	59.0%
29	ルールやマナー	自転車置き場で、マナーを守らないAさんに、Bさんが注意をしてもめている。	1.8%	5.5%	35.9%	56.8%

* 「よくある」と「ときどきある」の合計の多い順に並べている。
数値は小数第二位で四捨五入している。

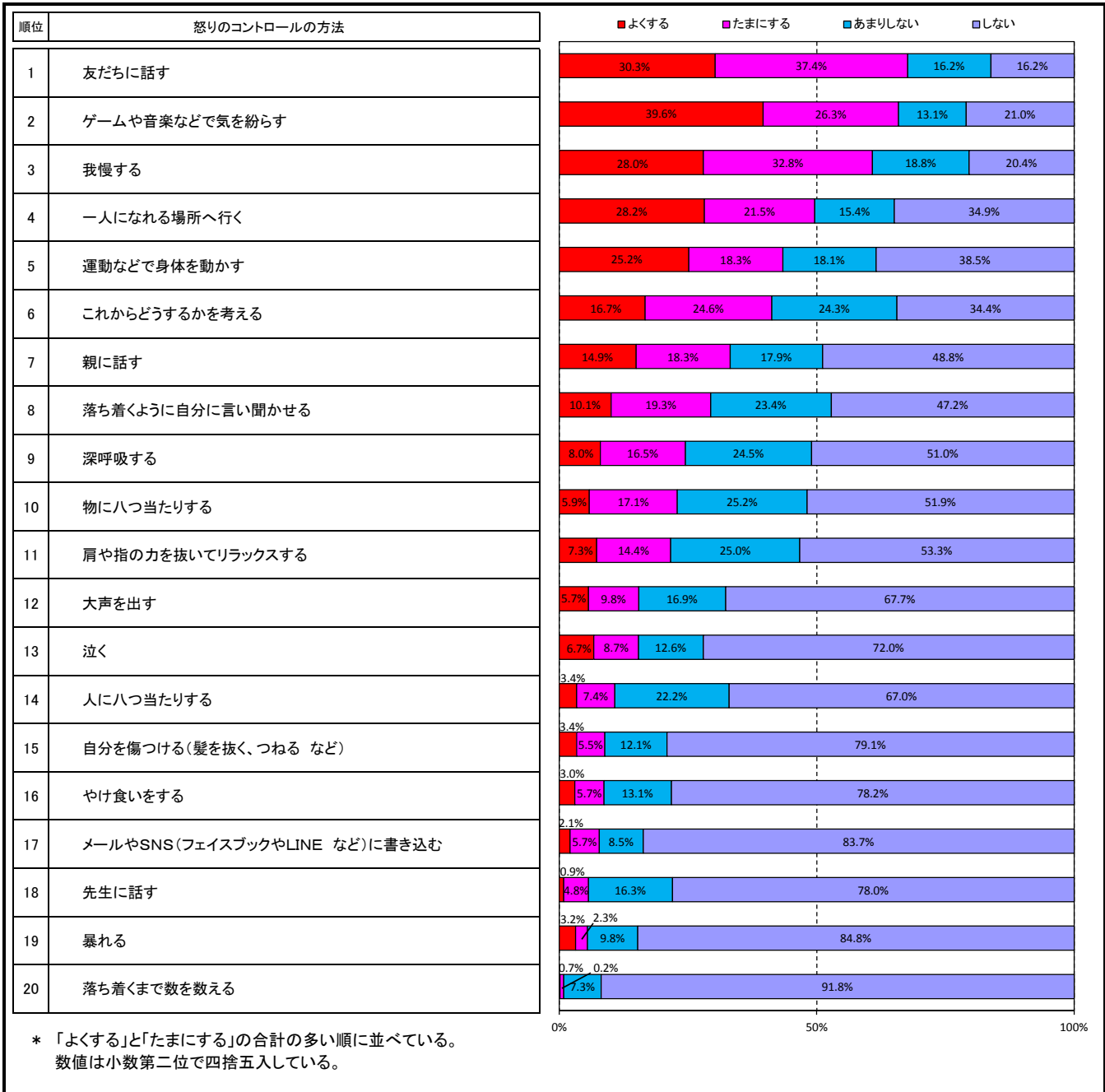
質問④ もし、①～⑳のトラブルがあったとしたら、間に入って声を掛けることができるといいますか。



* 「思う」と「少し思う」の合計の多い順に並べている。
数値は小数第二位で四捨五入している。

怒りのコントロールについて

質問 学校生活で友だちに腹が立って、イライラしたりムカムカしたりしたとき、あなたはどのようにしていますか。



質問 怒りをコントロールする方法として、他にもやっていることがあったら書いてください。

<p>寝る [37]</p> <p>何かに没頭する</p> <ul style="list-style-type: none"> 本を読む [7] 勉強をする [2] 好きな事をする [9] 絵を描く 歌を歌う [6] インターネットで閲覧をする 機械いじりをする <p>前向きに考える</p> <ul style="list-style-type: none"> その出来事をポジティブに考える その出来事を忘れるようにする [2] 別の事を考える [11] 原因を考える [2] <p>気分転換をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 買い物に行く 風呂に入る 窓の外の景色を見る [3] <p>自分の気持ちを絵や文章にする[5]</p>	<p>相手を攻撃する</p> <ul style="list-style-type: none"> 腹が立っている気持ちを言う 無視する 仕返しをする <p>相手に聞こえないように文句などを言う</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に聞こえないようにぶつぶつ言う 心の中で相手の悪口を言う <p>遊ぶ [6]</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 落ち着くまで何も考えない [3] 落ち着くまでしゃべらない 笑ってごまかす 笑う [2] 親以外の家族に話す [2] 架空の人と話す [2] 案になれる人と一緒にいる 学校へ行かない 手触りの柔らかい物に触れる 動物と触れ合う
--	--

* []の中の数字は、同様の内容を回答した児童生徒数を表している。